

■■コミケットのあめとゆき■■

関東地方の冬は概ね晴れ続きのことが多いが、それでも過去何度か雨や雪に見舞われたことがある。はっきり言って、コミケットの会場で悪天候に遭遇すると非常にキツイ。

なにせ雨が降ろうが雪が降ろうが待機列にいれば逃げ場はないし、会場内でも濡れた衣服を着替える場所もろくにない。その上、戦利品はもちろん水に弱いときている。少し考えただけでも、雨や雪が降った時のコミケット参加は格段に難度が上がるのがわかるだろう。

そして、朝から悪天候ならまだ対応のしようもあるが、開催中に天候が崩れた場合は何の備えも無ければより悲惨なことになる。せっかく会場へ足を運び、苦勞して入手した戦利品を濡らして台無しにした挙句、自分もカゼをひいて新年から寝込むようなことにならないためにも、冷たい冷たい冬の雨や雪に耐えられる最低限の備えは絶対に用意しておこう。

■基礎・悪天候対策■

コミケットでの雨対策で一番重要なのは、入場待機列でも企業ブースなどの待機列でも並んでいる間は基本的に傘をさすことができないということだ。

少しでも早く、少しでも多くの参加者をさばくために、コミケットの待機列はかなり前後左右の人との間隔を狭くとして形成されるので、その中で傘を開けば周囲の参加者に雨水を浴びせ、傘の骨の先でケガを負わせかねないという大きな迷惑をかけることになる。そのため、会場付近では傘（雨傘/日傘を問わず）は使用せずレインコート、レインウェア、ポンチョなどの雨具で対応しなければならないので、日頃からこれらの雨具を使う習慣のない参加者は当日の朝に大慌てしないように事前に用意しておこう。

とは言え、朝から雨でなければ使うかどうか分からない雨具を持っていくのは荷物をできるだけ軽量コンパクトにするという命題と矛盾する。

そこで、着ていく物と、特に大切な戦利品を入れるバッグは雨に耐えられるものにしていくことを心がけてほしい。上着は撥水性や防水性があるもので、頭を濡らさないようにフード付きだと良い。ズボンやスカートは濡れても乾きやすい素材のものを選ぶ（特に女性参加者はスカート、パンツ問わず濡れた時に透けてしまわないものを！）。

そして忘れがちだが、靴もできるかぎり防水のものを履いていくか、靴が濡れても足を濡らさない厚手のウールや化繊の靴下を履いておこう。衣服以上に靴が濡れるとダメージが大きくなる可能性があるためだ。

それでも濡れてしまうような場合や、逆に汗を多量にかいてしまった時などのために、最低限下着、肌着、靴下は替えを持って行くとよい。濡れた服を着替えるといった目的の場合は更衣室を無料で使用できる。

どれほどの備えがあっても、日頃から荒天下の屋外作業に慣れているのでもなければ、雨の中傘も使わずに長時間待機し続けるのは非常に心身への負担が大きい。

朝から悪天候の場合はできるだけ並ばなくて済むように会場到着時間を遅らせることを強く勧める。入場開始時間以降に入場待機列に並べば1時間足らずで入場できるし、正午過ぎに来場すればほぼ待つ必要もない。会場内の大手や企業の行列は仕方がないが、少なくとも入場待機列はわざわざつらい思いをして長時間雨や雪の中並び続けるメリットは薄いことを覚えておこう。



●サークル参加者の雨対策

サークルとして初参加という参加者にとって注意すべき、サークルとしての雨対策には2つの重要なポイントがある。

1つは当然頒布物である作品を濡らさないこと。万一に備え、家から会場へ持ち込む在庫はビニール袋に入れてから箱に納め、突発的な事態にも対処できるよう、70L程の大きなビニール袋一袋（十数枚入）とガムテープ（紙テープは濡れていると貼りつかないので布のもの）は忘れずにサークルの準備物に含めておこう。また、メンバーも傘が役に立たない状況を想定してレインコート類を用意しておくのが望ましい。

2つ目は時間の管理だ。朝から雨なら当然会場に到達するための時間が余計にかかる。また、閉会時に宅配便を利用するなら、その集配場所が屋内に変更されるために毎回大変時間のかかる長蛇の列になる傾向があることは覚えておこう。帰宅の時間に交通機関や門限などの制約がある場合はかなり余裕を持って動く必要があるのだ。

■■コミケットのあめとゆき■■

関東地方の冬は概ね晴れ続きのことが多いが、それでも過去何度か雨や雪に見舞われたことがある。はっきり言って、コミケットの会場で悪天候に遭遇すると非常にキツイ。

なにせ雨が降ろうが雪が降ろうが待機列にいれば逃げ場はないし、会場内でも濡れた衣服を着替える場所もろくにない。その上、戦利品はもちろん水に弱いときている。少し考えただけでも、雨や雪が降った時のコミケット参加は格段に難度が上がるのがわかるだろう。

そして、朝から悪天候ならまだ対応のしようもあるが、開催中に天候が崩れた場合は何の備えも無ければより悲惨なことになる。せっかく会場へ足を運び、苦労して入手した戦利品を濡らして台無しにした挙句、自分もカゼをひいて新年から寝込むようなことにならないためにも、冷たい冷たい冬の雨や雪に耐えられる最低限の備えは絶対に用意しておこう。

■基礎・悪天候対策■

コミケットでの雨対策で一番重要なのは、入場待機列でも企業ブースなどの待機列でも並んでいる間は基本的に傘をさすことができないということだ。

少しでも早く、少しでも多くの参加者をさばくために、コミケットの待機列はかなり前後左右の人との間隔を狭くとして形成されるので、その中で傘を開けば周囲の参加者に雨水を浴びせ、傘の骨の先でケガを負わせかねないという大きな迷惑をかけることになる。そのため、会場付近では傘（雨傘／日傘を問わず）は使用せずレインコート、レインウェア、ポンチョなどの雨具で対応しなければならないので、日頃からこれらの雨具を使う習慣のない参加者は当日の朝に大慌てしないように事前に用意しておこう。

とは言え、朝から雨でなければ使うかどうか分からない雨具を持っていくのは荷物をできるだけ軽量コンパクトにするという命題と矛盾する。

そこで、着ていく物と、特に大切な戦利品を入れるバッグは雨に耐えられるものにしていくことを心がけてほしい。上着は撥水性や防水性があるもので、頭を濡らさないようにフード付きだと良い。スポンやスカートは濡れても乾きやすい素材のものを選ぼう（特に女性参加者はスカート、パンツ問わず濡れた時に透けてしまわないものを！）。

そして忘れがちだが、靴もできるかぎり防水のものを履いていくか、靴が濡れても足を濡らさない厚手のウールや化繊の靴下を履いておこう。衣服以上に靴が濡れるとダメージが大きくなる可能性があるためだ。

それでも濡れてしまうような場合や、逆に汗を多量にかいてしまった時などのために、最低限下着、肌着、靴下は替えを持って行くとよい。濡れた服を着替えるといった目的の場合は更衣室を無料で使用できる。

どれほどの備えがあっても、日頃から荒天下の屋外作業に慣れているのでもなければ、雨の中傘も使わずに長時間待機し続けるのは非常に心身への負担が大きい。

朝から悪天候の場合はできるだけ並ばなくて済むように会場到着時間を遅らせることを強く勧める。入場開始時間以降に入場待機列に並べば1時間足らずで入場できるし、正午過ぎに来場すればほぼ待つ必要もない。会場内の大手や企業の行列は仕方がないが、少なくとも入場待機列はわざわざつらい思いをして長時間雨や雪の中並び続けるメリットは薄いことを覚えておこう。



●サークル参加者の雨対策

サークルとして初参加という参加者にとって注意すべき、サークルとしての雨対策には2つの重要なポイントがある。

1つは当然頒布物である作品を濡らさないこと。万が一に備え、家から会場へ持ち込む在庫はビニール袋に入れてから箱に納め、突発的な事態にも対処できるよう、70L程の大きなビニール袋一袋（十数枚入）とガムテープ（紙テープは濡れていると貼りつかないので布のもの）は忘れずにサークルの準備物に含めておこう。また、メンバーも傘が役に立たない状況を想定してレインコート類を用意しておくのが望ましい。

2つ目は時間の管理だ。朝から雨なら当然会場に到達するための時間が余計にかかる。また、閉会時に宅配便を利用するなら、その集配場所が屋内に変更されるために毎回大変時間のかかる長蛇の列になる傾向があることは覚えておこう。帰宅の時間に交通機関や門限などの制約がある場合はかなり余裕を持って動く必要があるのだ。

■■コミケットのあめとゆき■■

関東地方の冬は概ね晴れ続きのことが多いが、それでも過去何度か雨や雪に見舞われたことがある。はっきり言って、コミケットの会場で悪天候に遭遇すると非常にキツイ。

なにせ雨が降ろうが雪が降ろうが待機列にいれば逃げ場はないし、会場内でも濡れた衣服を着替える場所もろくにない。その上、戦利品はもちろん水に弱いときている。少し考えただけでも、雨や雪が降った時のコミケット参加は格段に難度が上がるのがわかるだろう。

そして、朝から悪天候ならまだ対応のしようもあるが、開催中に天候が崩れた場合は何の備えも無ければより悲惨なことになる。せっかく会場へ足を運び、苦労して入手した戦利品を濡らして台無しにした挙句、自分もカゼをひいて新年から寝込むようなことにならないためにも、冷たい冷たい冬の雨や雪に耐えられる最低限の備えは絶対に用意しておこう。

■基礎・悪天候対策■

コミケットでの雨対策で一番重要なのは、入場待機列でも企業ブースなどの待機列でも並んでいる間は基本的に傘をさすことができないということだ。

少しでも早く、少しでも多くの参加者をさばくために、コミケットの待機列はかなり前後左右の人の間隔を狭くとして形成されるので、その中で傘を開けば周囲の参加者に雨水を浴びせ、傘の骨の先でケガを負わせかねないという大きな迷惑をかけることになる。そのため、会場付近では傘（雨傘／日傘を問わず）は使用せずレインコート、レインウェア、ポンチョなどの雨具で対応しなければならないので、日頃からこれらの雨具を使う習慣のない参加者は当日の朝に大慌てしないように事前に用意しておこう。

とは言え、朝から雨でなければ使うかどうか分からない雨具を持っていくのは荷物をできるだけ軽量コンパクトにするという命題と矛盾する。

そこで、着ていく物と、特に大切な戦利品を入れるバッグは雨に耐えられるものにしていくことを心がけてほしい。上着は撥水性や防水性があるもので、頭を濡らさないようにフード付きだと良い。ズボンやスカートは濡れても乾きやすい素材のものを選ぶ（特に女性参加者はスカート、パンツ問わず濡れた時に透けてしまわないものを！）。

そして忘れがちだが、靴もできるかぎり防水のものを履いていくか、靴が濡れても足を濡らさない厚手のウールや化繊の靴下を履いておこう。衣服以上に靴が濡れるとダメージが大きくなる可能性があるためだ。

それでも濡れてしまうような場合や、逆に汗を多量にかいてしまった時などのために、最低限下着、肌着、靴下は替えを持って行くとよい。濡れた服を着替えるといった目的の場合は更衣室を無料で使用できる。

どれほどの備えがあっても、日頃から荒天下の屋外作業に慣れているのでもなければ、雨の中傘も使わずに長時間待機し続けるのは非常に心身への負担が大きい。

朝から悪天候の場合はできるだけ並ばなくて済むように会場到着時間を遅らせることを強く勧める。入場開始時間以降に入場待機列に並べば1時間足らずで入場できるし、正午過ぎに来場すればほぼ待つ必要もない。会場内の大手や企業の行列は仕方がないが、少なくとも入場待機列はわざわざつらい思いをして長時間雨や雪の中並び続けるメリットは薄いことを覚えておこう。



●サークル参加者の雨対策

サークルとして初参加という参加者にとって注意すべき、サークルとしての雨対策には2つの重要なポイントがある。

1つは当然頒布物である作品を濡らさないこと。万一に備え、家から会場へ持ち込む在庫はビニール袋に入れてから箱に納め、突発的な事態にも対処できるよう、70L程の大きなビニール袋一袋（十数枚入）とガムテープ（紙テープは濡れていると貼りつかないので布のものは忘れずにサークルの準備物に含めておこう。また、メンバーも傘が役に立たない状況を想定してレインコート類を用意しておくのが望ましい）。

2つ目は時間の管理だ。朝から雨なら当然会場に到達するための時間が余計にかかる。また、閉会時に宅配便を利用するなら、その集配場所が屋内に変更されるために毎回大変時間のかかる長蛇の列になる傾向があることは覚えておこう。帰宅の時間に交通機関や門限などの制約がある場合はかなり余裕を持って動く必要があるのだ。